

令和4年産 麦作情報総括号

令和4年11月17日
宮城県石巻農業改良普及センター
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/



技術情報はこちらから

～今冬の振り返り～
(°C)

気象経過と生育概況

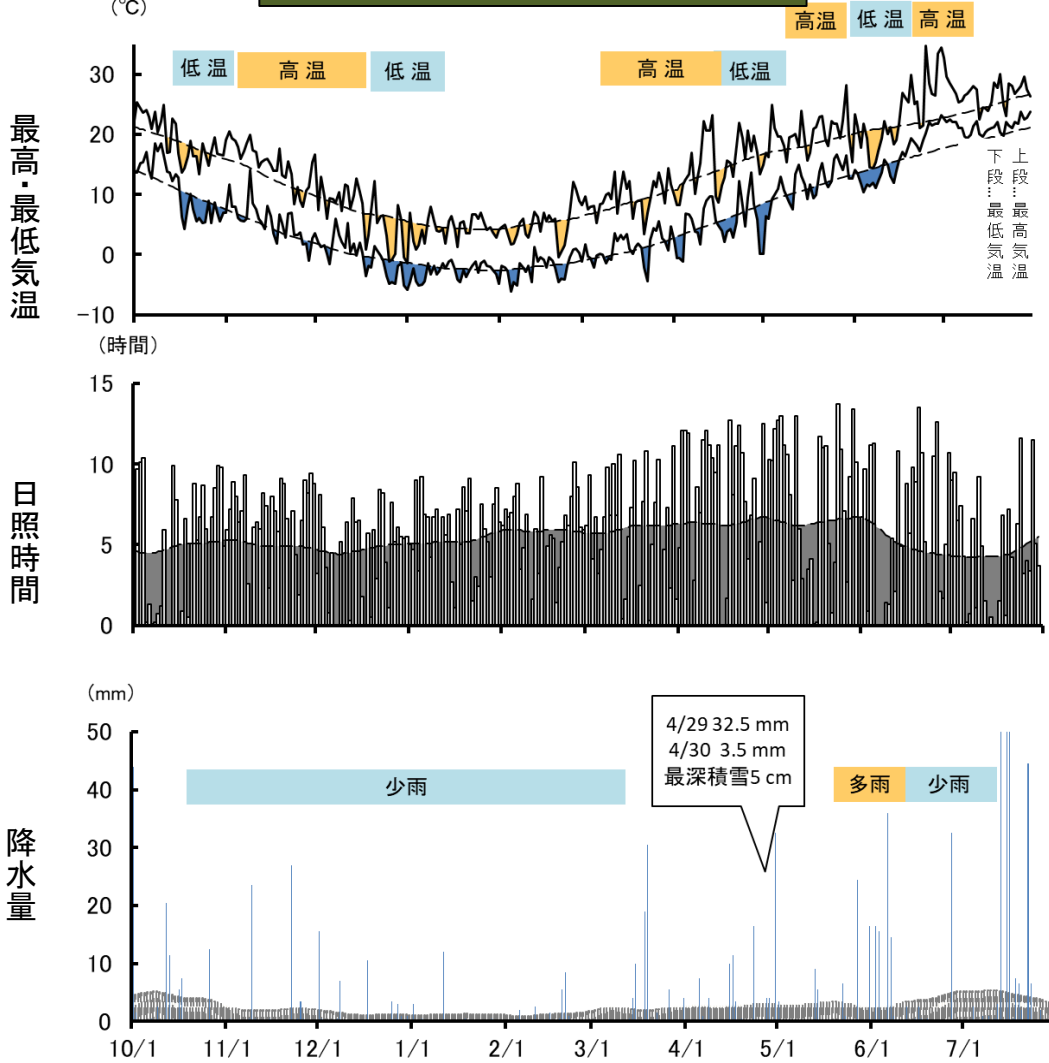


図1 麦類生育期間の気象経過(アメダス石巻)

○越冬前

- ・10月はまとまった晴れ間があり、播種は平年より早い傾向でした。
- ・11月から12月は高温、少雨傾向で、麦踏みが順調に実施され、年内の草丈、莖数は平年を上回りました。

R4年産は10月中旬に播種できたほ場が多かった！

○冬期間

- ・1, 2月は気温は平年よりも低く、日照時間は平年並、降水量はかなり少なく推移し、生育が停滞しました。
- ・3月中旬以降定期的な積雪、降雨があり、麦踏みが難しい時期が続きました。

○越冬後

- ・3月下旬から4月は高温傾向で、生育ステージは順調に進みました。4月下旬に降雪があり、一部のほ場では倒伏や穂の損傷がありました。
- ・5月から6月にかけて高温、少雨傾向で、赤かび病の適期防除、適期刈り取りができました。

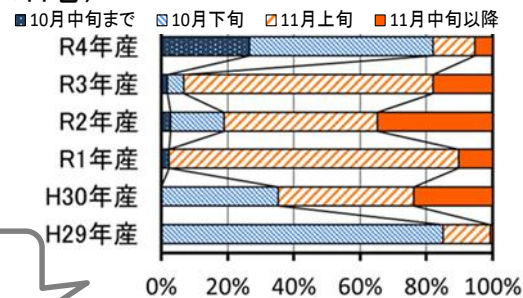


図2 時期別播種面積割合

生育ステージ

○播種日は平年より早い傾向でした。

○幼穂形成期は早い～平年並みの傾向でした。特にシュンライでは平年，前年より1か月近く早く幼穂形成期となりました。減数分裂期は平年より早い傾向でした。

○出穂期，成熟期はほぼ平年並みでした。

表1 生育調査ほの生育ステージ

品種	調査ほ		播種日	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期	成熟期
シュンライ	桃生	本年	10月10日	2月10日	4月14日	4月24日	6月3日
		前年差	-6日	-30日	+1日	+1日	-3日
		平年差	-14日	-36日	-6日	-4日	-3日
ミノリムギ	桃生	本年	10月22日	3月25日	4月23日	5月4日	6月14日
		前年差	+2日	+15日	+1日	+6日	+4日
		平年差	-2日	+4日	-1日	±0日	+1日
	真野	本年	10月23日	3月23日	4月21日	5月2日	6月15日
		前年差	-6日	+3日	-1日	+2日	+7日
ホホワイトファイバー	水沼	本年	10月18日	3月16日	4月13日	4月24日	6月5日
		前年差	-2日	+4日	+3日	+1日	+1日
		過去3年差	-8日	±0日	-3日	-2日	+1日
シラネコムギ	小船越	本年	10月10日	4月5日	4月27日	5月8日	6月30日
		前年差	-50日	-3日	-6日	-2日	+5日
		平年差	-27日	-11日	-7日	-5日	+4日
	桃生	本年	10月31日	4月7日	4月28日	5月9日	6月28日
		前年差	+11日	+15日	+7日	+7日	+5日
平年差	+3日	±0日	-1日	±0日	+5日		

※()内における赤字の+は平年よりも遅く，-は平年よりも早いことを示す。

生育調査ほの生育経過

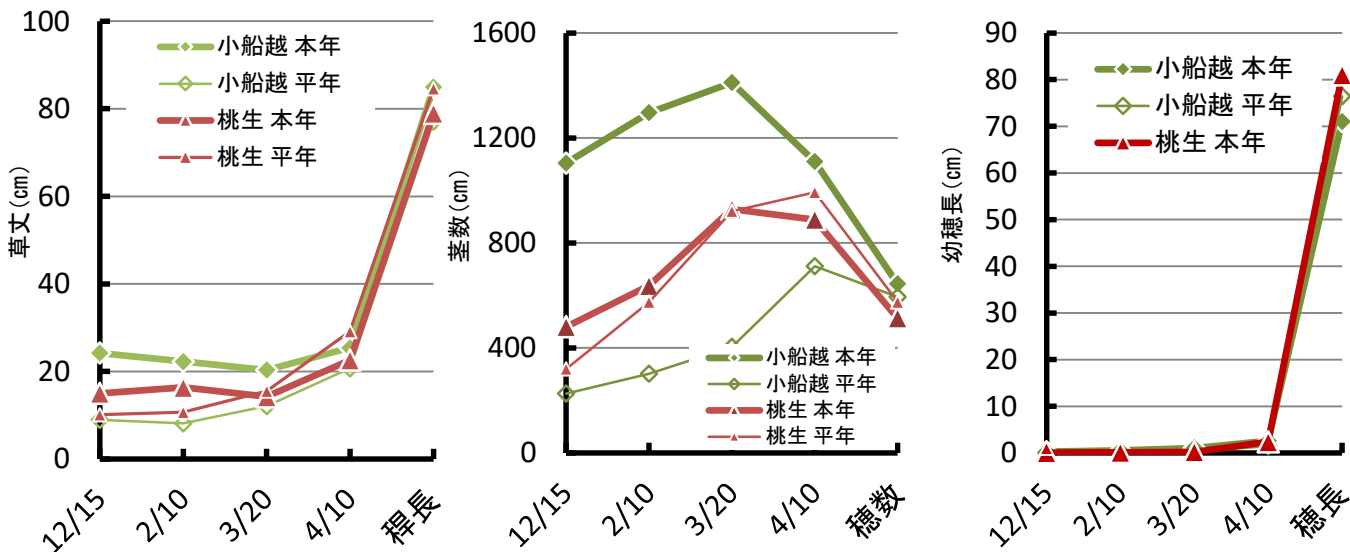


図3 草丈(左), 莖数(中)及び幼穂長(右)の推移(シラネコムギ)

※小船越本年播種日: 10/10(平年差-27日), 桃生本年播種日: 10/31播種(平年差+3日)

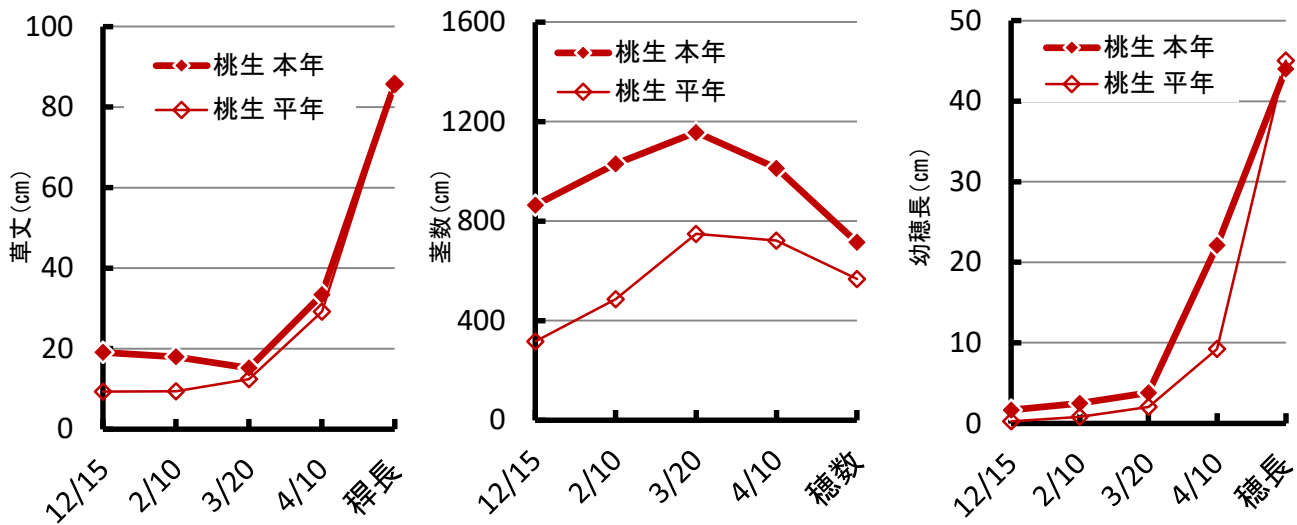


図4 草丈(左), 莖数(中)及び幼穂長(右)の推移(シュンライ)

※ 桃生本年の播種日: 10/10(平年差-14日)

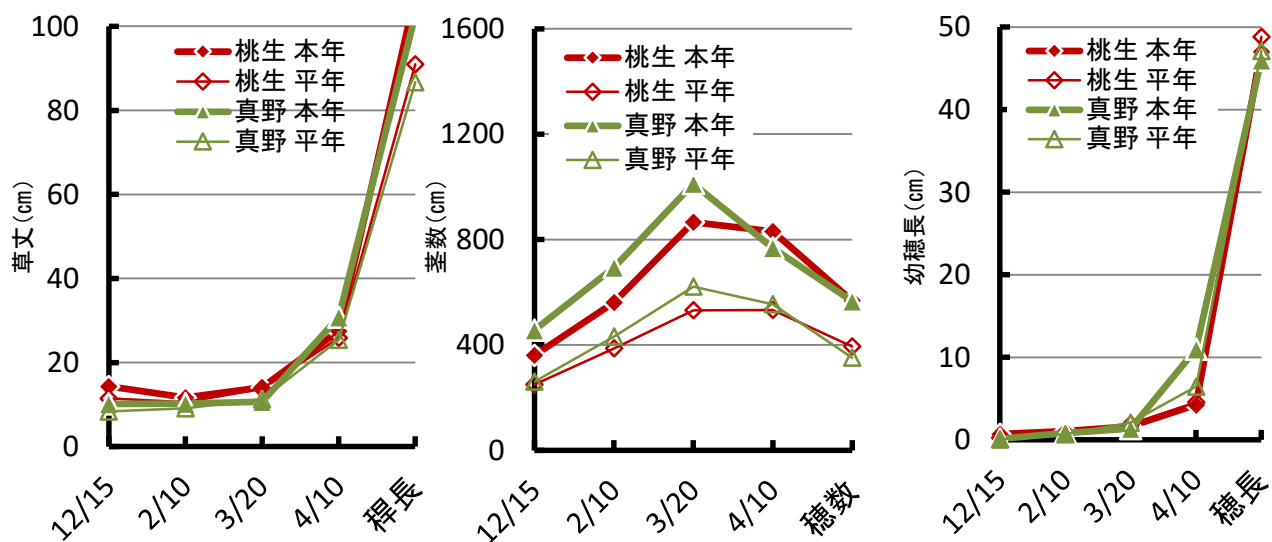


図5 草丈(左), 莖数(中)及び幼穂長(右)の推移(ミノリムギ)

※ 桃生本年播種日: 10/22(平年差-2日), 真野本年播種日: 10/23(平年差-6日)

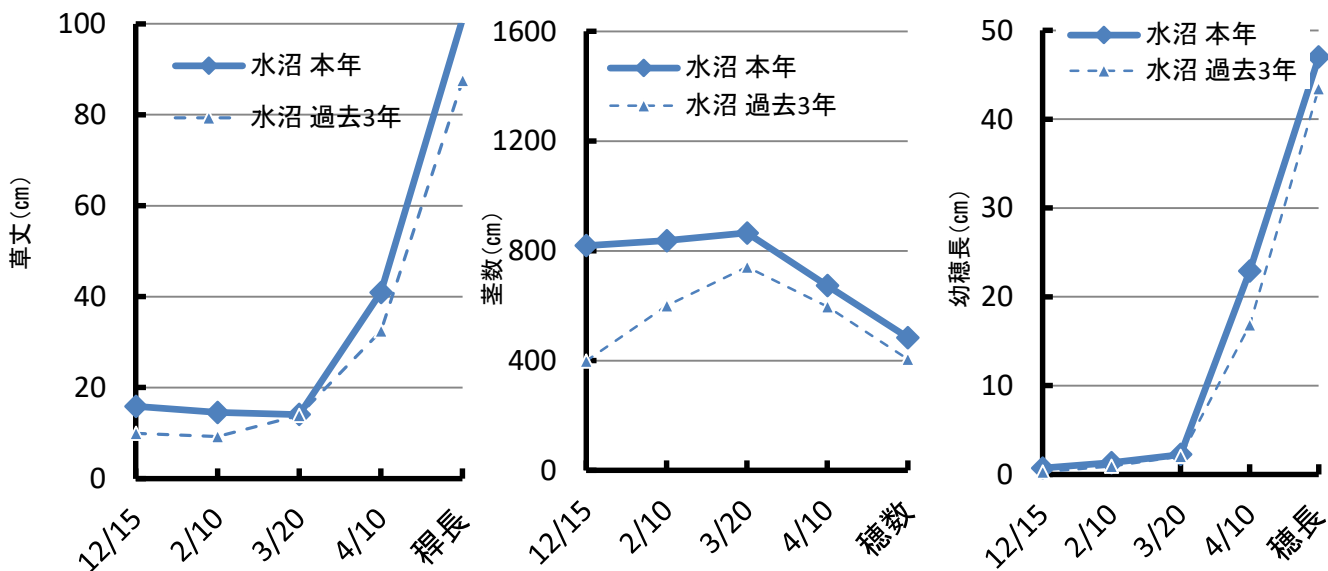


図6 草丈(左), 莖数(中)及び幼穂長(右)の推移(ホワイトファイバー)

※ 水沼本年播種日: 10/18(過去3年平均差-8日)

収量及び品質

- ◆生育調査ほの収量は、播種を10月上旬に行えたほ場(桃生シュンライ10/10,小船越シラネコムギ10/10)で平年を下回り,その他のほ場では平年を上回りました(表1,表2)。
- ◆収量低下の要因として,桃生シュンライは4月下旬に雪害による穂首折れの倒伏により損傷を受けたこと,小船越シラネコムギでは赤かび病が多発したことで成熟期に倒伏したことが考えられます。
- ◆収量増加の要因として,年内に茎数を確保できたことで穂数が多くなり,子実粒数が増加したことが考えられます。千粒重,容積重は平年並みでした。また農産物検査における上位等級(1等・2等)の割合は,ホワイトファイバーを除き,前年を下回りました(図7)。

表2 生育調査ほの成熟期調査及び収量調査結果

品種(調査ほ)		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	子実粒数		千粒重 (g/千粒)	容積重 (g/L)	子実重 (g/m ²)	全重 (g/m ²)	わら重 (g/m ²)
					(粒/穂)	(千粒/m ²)					
シュンライ (桃生)	本年	86	4.4	715	20.5	14.7	39.0	671	573	1,615	820
	前年比	93%	99%	111%	66%	74%	107%	97%	79%	128%	106%
	平年比	100%	98%	126%	66%	85%	101%	96%	88%	130%	158%
ミノリムギ (桃生)	本年	107	4.7	568	40.0	22.7	33.7	671	765	1,565	703
	前年比	118%	99%	131%	145%	191%	100%	101%	142%	126%	124%
	平年比	118%	96%	144%	103%	152%	94%	101%	137%	132%	146%
ミノリムギ (真野)	本年	103	4.6	566	40.7	23.0	31.8	648	732	1,532	657
	前年比	158%	102%	197%	-	-	-	-	286%	271%	268%
	平年比	118%	98%	161%	130%	211%	86%	99%	197%	167%	174%
ホワイト ファイバー (水沼)	本年	101	4.7	484	38.5	18.6	33.2	658	619	1,352	605
	前年比	105%	115%	101%	-	-	-	-	141%	83%	77%
	平年比	115%	108%	119%	120%	157%	91%	98%	143%	109%	109%
シラネ コムギ (小船越)	本年	85	7.1	644	18.7	12.0	37.4	802	450	1,288	654
	前年比	115%	89%	105%	76%	80%	102%	98%	82%	103%	132%
	平年比	110%	93%	108%	69%	75%	93%	98%	70%	94%	126%
シラネ コムギ (桃生)	本年	79	8.1	514	27.5	14.1	37.7	831	533	1,215	486
	前年比	91%	107%	82%	-	-	-	-	121%	78%	55%
	平年比	93%	101%	89%	97%	89%	91%	102%	87%	89%	84%

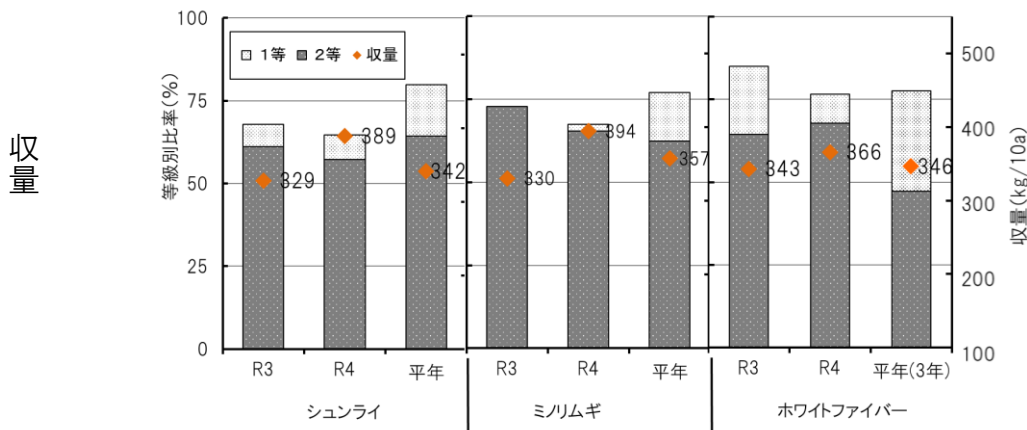
注) 平年は過去5年平均。ただし,ホワイトファイバーは過去3年平均。さらに,子実粒数,千粒重,容積重の平年はミノリムギ(真野)とシラネコムギ(桃生)の過去4年平均,ホワイトファイバー(水沼)は2年平均。

※青は平年より低い(少ない),赤は平年より高い(多い)ことを示す。

◆管内の概況(収量・品質)

【大麦】-すべての品種で収量は前年,平年より上回りました。

-1,2等の割合は,少~平年並でした。



収量 多(平年比114%) 多(平年比110%) 多(平年比106%)
 1・2等割合 少(平年比81%) 少(平年比88%) 並(平年比99%)

図7 石巻管内の大麦検査等級別比率と収量の推移(JAいしのまき農産物検査課調査)

【小麦】・収量はシラネコムギで平年を下回り、夏黄金で平年を上回りました。
 ・1,2等の割合は、平年より高く、特に両品種ともに1等比率が高くなりました。

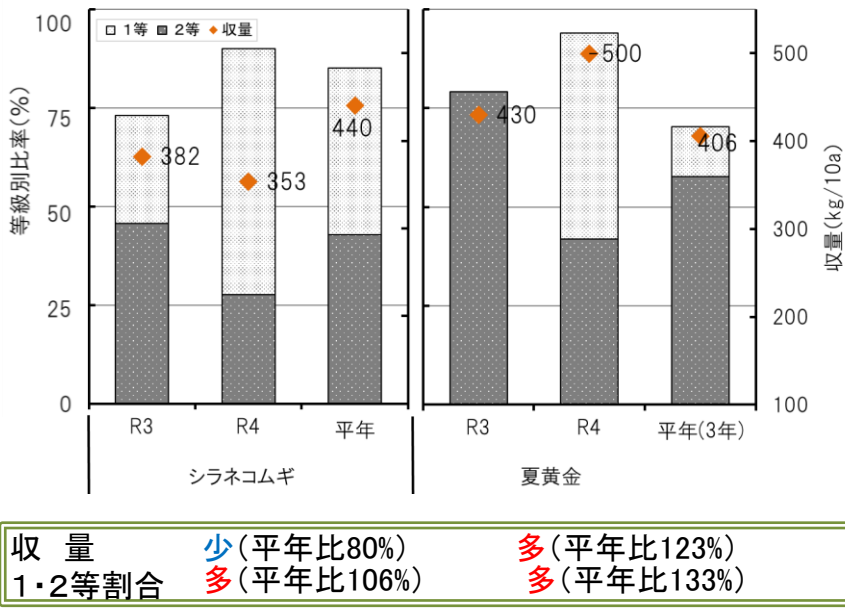


図8 石巻管内の小麦検査等級別比率と収量の推移(JAIいのまき農産物検査課調査)

作柄概況まとめ

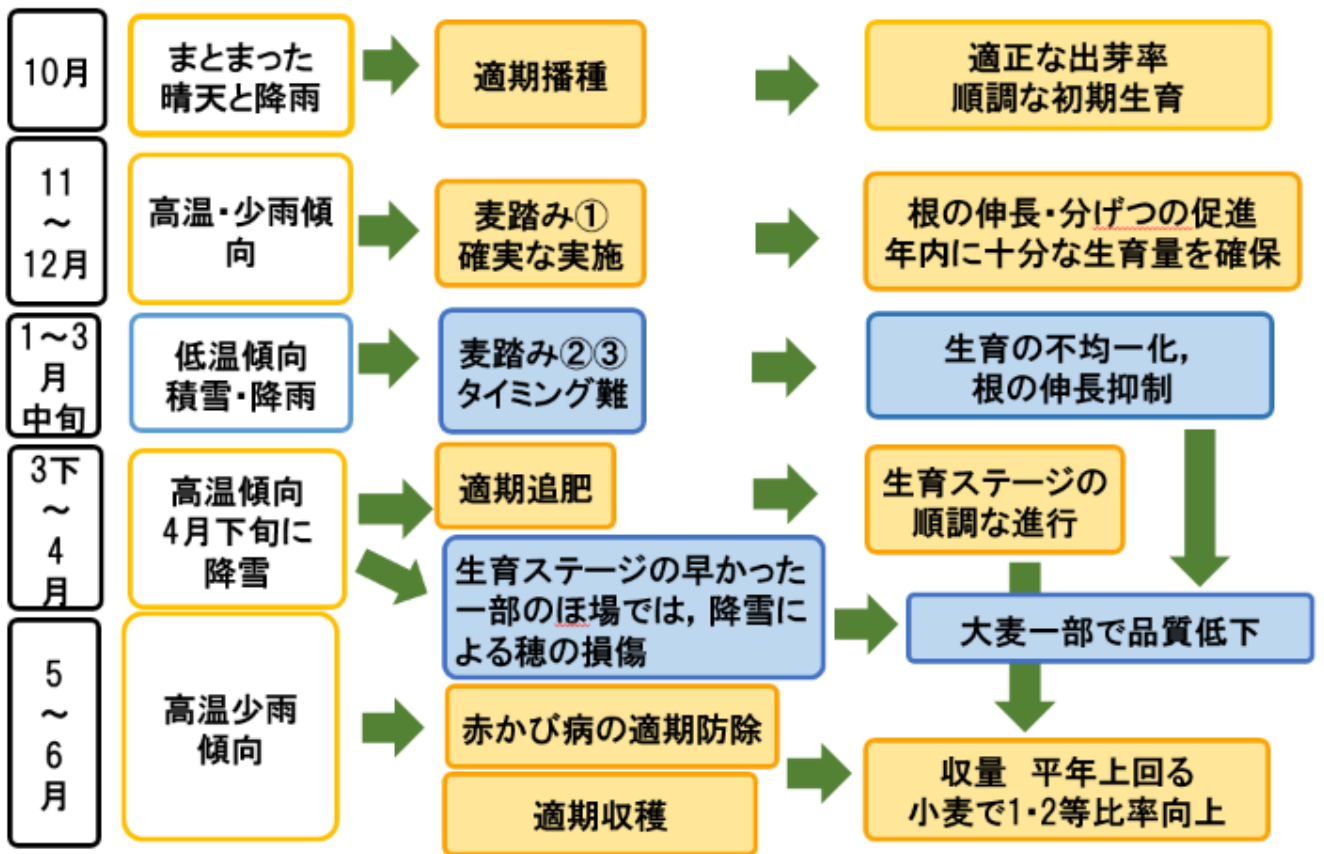


図9 令和3年は種(令和4年産)麦類の作柄解析

◆年度によって気象経過は異なりますが、麦類も他作物と同様に**基本技術の励行**が大切です！
 基本を確認し、適期作業に努めましょう。

○湿害対策の徹底：明渠，暗渠

- ◆湿害対策の基本は表面(作土層含む)停滞水の除去です。
- ◆明渠は必ず排水口につなぎ，排水路に水が流れる構造になっているか確認しましょう。
- ◆麦類は土壌が過湿になって酸素が不足すると，発芽不良や，浅根，分けつの減少，葉の黄化，収量・品質低下などが起こります。

排水溝は詰まってないか？

明きよは崩れてないか？
明きよに停滞水がたまっていないか？



表面水が排水されているか
点検しましょう！

図10 排水状況確認チェックの例

○麦踏みの実施：年内1回，年明け1～2回

◆3～4葉期(年内)に1回，節間伸長期(大麦：3月上旬，小麦：3月下旬)までに1～2回行いましょう。茎数が400本～500本/m²確保できたときが実施するタイミングの目安です。

◆排水の悪いほ場では麦踏のタイミングを逃して凍上害を招く可能性があります。1回目はほ場に凍結層ができる越冬前までに行いましょう。湿害による生育不良の場合は麦踏効果が小さい場合があるので，無理に行わず生育状況を見ながら麦踏の判断をしてください。

◆土が湿った状態で行うと，土が締まって根の伸長阻害や排水不良をもたらすので，必ず土が乾いた状態で行いましょう。

麦踏みの実施

耐寒性・耐干性の強化
根伸長の促進
分けつ発生促進
生育の均一化

品質・収量の向上

○適期追肥：幼穂形成期，減数分裂期，穂揃期(小麦のみタンパク質含有量を高めるため行う)

◆適期に追肥を行い，品質，収量向上を目指しましょう。

◆小麦は穂揃期追肥を行い，タンパク質含有率を高めてください。シラネコムギでは減数分裂期追肥を窒素成分で8～9kg/10a程度に増量することで慣行施肥とほぼ同等の子実粗タンパク質含有率が得られ，穂揃期追肥を省略できます(宮城県普及に移す技術第83号)。

シラネコムギ

幼穂形成期 2.5kg/10a(硫安12kg/10a)
減数分裂期 5.0 kg/10a(硫安24 kg/10a)
穂ぞろい期 2.5 kg/10a(硫安12kg/10a)

夏黄金

幼穂形成期 2.5kg/10a(硫安12kg/10a)
減数分裂期 5.0 kg/10a(硫安24 kg/10a)
穂ぞろい期 5.0 kg/10a(硫安24 kg/10a)

図10 シラネコムギと夏黄金の追肥時期と施用量の目安(窒素成分，硫安)